

公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科に  
通院中または過去に通院・入院された患者様またはご家族の方へ  
当科における臨床研究にご協力をお願いいたします。

2021年8月7日

『間質性肺疾患の治療応答性に対する血清バイオマーカーの網羅的な解析』に関する臨床研究を実施しています。

公立陶生病院 医の倫理委員会の審査による院長の承認を得て実施しています。この研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

倫理審査承認番号	
研究課題名	間質性肺疾患の治療応答性に対する血清バイオマーカーの網羅的な解析
所属(診療科等)	呼吸器・アレルギー疾患内科
研究責任者(職名)	近藤康博(副院長)
研究実施期間	医の倫理委員会承認日～2026年3月31日
研究の意義、目的	間質性肺疾患(ILDs)は、肺の間質の炎症と線維化に起因する予後不良の疾患の総称です。抗炎症治療、抗線維化薬が治療薬として選択されますが、特に線維化病態と炎症病態が混在している肺線維症(IPF)以外の間質性肺疾患(non-IPF)の患者さんにおいて、抗線維化療法と抗炎症療法のどちらを優先するかについては十分にわかっておらず、その有効性を患者個々に予測する検査指標が求められています。この研究ではILDと診断された患者さんの血液中の微量物質(バイオマーカー)を調べて、通常の診療で行われる検査データなどと比較することで、よりよい治療を選択するための指標を見つけ出し、今後の診療に役立てることを目的としています。
対象となる患者さん	公立陶生病院で2007.1-2021.8までの期間で間質性肺炎に対して通院中で、残余検体がある患者さん。
利用する診療記録／検体	患者背景、喫煙歴、併存疾患、呼吸機能、血液検査所見、臨床経過、画像情報(胸部レントゲン画像、CT画像)、残余検体(血液)
他機関から試料・情報の提供を受ける方法	なし
研究方法	Non-IPF患者さんに抗炎症治療を施行する前に採取した残余血液をシスメックス株式会社に送付し、血液中のバイオマーカーを網羅的に解析する。また比較するためにIPFを含む間質性肺疾患患者さんの残余血液も同様に解析する。

研究代表者	近藤康博(副院長)
問い合わせ先	公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科 山野泰彦 電話 0561-82-5101 FAX 0561-82-9139

既存の検体や診療記録、検査結果を研究、調査、集計しますので、新たな診察や検査、検体の採取の必要はありません。

患者様を直接特定できる個人情報を削除した上で提供された試料・情報等を利用します。研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌などで発表しますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

この研究にご自分の診療記録等を利用することをご了解いただけない場合、またご不明な点については、上記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

研究不参加を申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはありません。ただし、同意取り消しの申し出をいただいたとき、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合や、試料や情報が匿名化されて個人が全く特定できない場合などには、結果を廃棄できないこともあり、引き続き使わせていただくことがあります。